

こいしに転生…えっ小
石!?

徒子

【注意事項】

このPDFファイルは「ハーメルン」で掲載中の作品を自動的にPDF化したものです。

小説の作者、「ハーメルン」の運営者に無断でPDFファイル及び作品を引用の範囲を超える形で転載・改変・再配布・販売することを禁じます。

【あらすじ】

とある男がこいしに転生……石に……

※作者は文才は、皆無デウス（へーへ）ノ

※作者は、妹紅推しです

目次

プロローグ	1
詰み	6
神威	13
旅をしよう	24
キャラ紹介	29
衝撃の事実？	34
衝撃の事実？Ⅱ	44
終わりの始まりの始まり	52
謎の少女	59
リメンバー	71

プロローグ

ある時ある世界で死んだ男が、ただの奇跡かそれとも神の悪戯なのか、正常なのか異常なのか、誰にも分からない、ただ一つ言えることは「転生」したことだ

小石に。

ある日ある世界のある場所に新たな命が誕生した…

運がいいのか悪いのか、小石に転生しまった元男の事だ…が…まあ、運が悪い。

…

…

…

ドンマイ、 (@ _ (@))

—————

《うう…何だ、物凄くムカつく、何でか分からないけど凄くムカつく…ってか何処だ此処…》

《たしか、BBQ行って……そおーいや……!!!お、俺生きてる！助かったんだ
!!やったー!!!ふうー!!やあー!!!うえ…い……!!!お、俺生きてる！助かったんだ
目の前には人二人分ぐらいのでかい草が大量にそびえ立っていたのだった

そして、身体が動かなく感覚もなくだが、聴覚と視覚だけあるときずいたのは、10

分後の事だった：

ただの馬鹿だった

――――
転生から3日目

” 拝啓母さん元気ですか？ 病気にはなっていませんか？ 僕は、どうやらとんでもない事になってしまった様です。

簡単に説明すると、

B B Q 行こうぜ ↓ 楽しいなハハハハ ↓ 女の子が溺れてる!?! ↓ 友と助けに行く ↓ 転ぶ ↓ きずいたら石

そう、小石に転生したようです。” (▽) (▽) ハハハハハハハハ……………

あんまりだあ…小石に転生した事もそうだが、死にざまが…かつこ悪過ぎる…

何でだ!! 女の子を助けて死んだならまだ分かる、葬式でも【少女を助けて死んだ】と言う称号がつくものの、何に？ 何なの!?! 転んで死ぬって！これじゃ【 B B Q で転んで

死んだ男」だ…

《ふう、後悔してちゃ何も始まんねえな
!!!!!!
……でもPCもテレビも無い……》

絶賛後悔中であつた

あれから（転生から）一週間経つた。

物事を整理しよう、まず

名前は…覚えてない、こう、なんか心にそだけ穴が空いてるような感じだ、
それに体が動かない、それはピクリとも動かない、

また感覚もなく五感で正常なのは、聴覚、視覚だけだ

そーいや何も食べてないが腹が減らない

そして最後俺が石な事だ。

誰もが思うだろう、石って生きてるの？何故石？割れたら終わりじゃね？と

それはな………知らん!!!

死んで突然石になる、なにを言ってるのか分からねえと（ry

ただ、不思議なことに空見て草見て夜になってまた朝になる、こんな今時の若者には耐えられない様なおじいちゃん見たいな生活でも飽きないようになっていた。

俺は、一つの結論にたどり着いたのである
石↓動けない↓死ねない↓石って死ぬの？

ああ…生まれて一週間いきなり、ガチな方で

詰みました。

詰み

詰んだ…

動く事も死ぬ事も出来ない。

勿論PCも出来ない…。当たり前だが…

転生してから一ヶ月？ぐらい経ったと思う、え？わかんないって？大丈夫！俺もわかんない！！

てか、此処が何処かすら分からん、分かるのは【石】に転生したことだしかも【小石】に、よく考えてみよう、小石だぞ！？小石って何だよ！もつとデカイ石…岩が良かった、…ってよくねえよ！！

何で石なんだよorz!!まさかの無機物!!、あれ？石って有機物だっけ？

いや、無機物だ、100%どう考えても無機物だ、アレか？新種の石か？

その、賢者の石ってか？飛行石ってか？てか有機物の石って何だよ、

石…小石…こいし…つあ古明地こいし!!こいしたん可愛いよおhshs!!

なんかこいしたんと繋がりを感じる!!…石だけにつてか!…つけ、ハハハハッおも

しれええ！面白すぎる!!!へへへへへへッ………ふう

………

………

現実逃避はここまでだ…

………

………

………

どしよ…この状況…＼（へおへ）／

さて、何故石に転生してもはや現実から逃ぎつていた小石（元男）がこんなにも現実を逃避しているかを一週間前から振り返ってみよう。

—————

《あく何かなく何もやる気がしねえ…まああつても出来ないんだけどね》

自分で言つてて辛い…

今日もウオツチングしますかな

…ツトポト

《ん？雨か？考えてみれば転生初雨か…こうして喋って無いと本当の石になりそうだ…これって喋ってるのか？ てかもう石だけだなw

つま、心だけは、意志を強くってね石だk 『バゴオオン』 ツうえい!?!》

ザザザザザザー

《か、雷かゝハハ、ビビったゝ、まあ俺に当たるなんてそんな奇跡的なこと起きる訳な『ツバツゴゴン』》

直撃した。完璧にフラグである。

フラグ回収乙（へーへ）ノとでも言っておこう

—————

チュンチュン

《うっうーん、朝チュン?…って、あれ?俺…さつきまで…あれ?雨降つてて、それで雷…が…目の前…真っ白…雷直撃?お、俺は気絶していたのか?ハハ、という事は…なく》

死ねる。そう、そのままの意味である

そうか、死ねるのか……：そうか……いや、待てよ、雷直撃で死なないって……ふつうだったら死んでいる……：そう、【普通】だったら、人間の話だ、人間が雷直撃で生きてる方がおかしい、生きてても重傷だろう……

これも人間だけの話では無い、犬も熊も大抵の生き物だったら死んでいるだろう、だがしかし!!俺は今普通じゃない!!何回もくどいと思うが、

石だあ、そりゃタフだ、今更だが、そんな死にたいとも思わない

雷だつて奇跡だもう当たらないだろう……

ふと違和感に気づいた……

《あれ?俺の周り草が生えてる?雷が当たって普通生えてないんじゃ?》

あの雨で流されたのか?でもあの激しい雨でも流されなかつたし……小石のくせに重いんだよな俺、お!それとも長い間寝てたとか?どうでもいいや》

《ん?そーいえばさつきから身体の(石か?)中で暖かい何かが渦巻いてるような?何だ

これ?……：……どうでも (ry)》

こうしてその日は終わった……

三日後

ハハハハハツ!!! 最高にハイって奴だあ!!!!!!
あの三日前に手にした? 身体の中の暖かい何かは、何かしらの力の様だ
あれから暇だったから色々やってたら少しだけ身体を動かす事に成功した!!。
どうやったかって? ハハハ!! 教えてやろう!!
何かしらの力を身体の下に集めてたら(あれ? これ動けんじやね?) と考え集めて集めて↓解放で動けたんだ(――)
やった後は気絶したが…

それから2日後

今日もまた少しだけ動く練習という名の暇つぶしをしていた。

《疲れたこの力は、大量にあるのに少し出したら気絶するんだよな》

そんなこんなで日が暮れて夜になり…

《今日は、満月か》

そんなことを思っていると

何やら前から狼らしき影が…

《おお！ここにきて初めての哺乳類!!形からして狼か?》

虫や鳥なら無数に見たことあるが狼?などは初めてだ…

《何かドキドキする》 w k t k

《え?》

そこに現れたのは狼の3倍の大きさがある角が生えてる体中傷だらけの
化物だ

そしてその化け物は俺の前で止まった。

詰ん (r y

—————

と言う感じの流れでこうなった＼(^ o ^)／

ど、どうしよう、く、喰われる

お、落ち着け大丈夫！石食べる狼何て知らない：

てか、こんな奴地球上に居たっけ？

俺の知る限り居ない、でも世界は広いしどっかに居るだろ

まあ、石である俺、自分で言う可悲しい：けど喰われる訳ねえよ w w w

おっこいつよく見ると可愛いなくハハハ

じゃあな！お休 m 『ガブツ』

—————

またもやフラグ回収乙

だだ大丈夫ツ!!まだ口の中!!牙の隙間から月明かりが見える!!
ただ唾えてるだけ!!そう、大丈夫、すぐに離すだ r 『ごつくん』

《何をするだーー!!》

|||||

s i d e
???

意識が朦朧とする…

此れ程の深手を負うとは…

【彼奴】の全妖力を込めた最期の技、終焉天雷、だったか…

あれは効いた…が、悪くなかったな…妖の王、神威にここまで痛手を与えるとは、あれ程愉快な殺り合いは初めてだった…

最後の【アレ】が当たっていたら確実に死んでいた…

死ななかったのはただの幸運か…それとも彼処であの技で死ぬのも良かったのかも
しれん…

嗚呼もう死ぬのだろうか…

まあいい…

が

しかし【彼奴】は終始可笑しな事を言っていたな、確か【ちーと】だとか【こいつはくせーゲロがなんとか】とか、今思えば本当に分からないな、最後に【俺は人間を辞めるぞ!!】などほざいてた時はどうしたかと思つたぞ、妖力があり得ないほどあり霊力が無いのに人間とは…

だが、何故人間を好くのか聞いた時は「そんなん知ねーよ、俺の気に入つた奴だから好きになる!!簡単なこつたる。だが、

最後にいいこと教えてやるよ、世の中にはこんな言葉があるんだ

” 去つてしまった者たちから受け継いだものは、さらに『先』に進めなくてはならない!!”

つてな、彼奴らが残したものは、想いは全部俺が受け継ぐ!!故にお前を……殺す!!”と理解し難い事を言っていたが…

去つてしまった者たちから受け継いだものは、さらに『先』に進めなくてはならないか…

ここで死ぬもいいが少しばかり人間に興味が湧いた…

【彼奴】には、悪いがもう少し生きてみるか…

と、言ったもののもう死ぬだろう…

妖力も既に枯だ…

ツ!?

この妖力は!?

【彼奴】の妖力か!?

奴の妖力の元へ傷だらけの体に鞭を打ちゆつくりと、そして確実に進んで行ったの
だった

—————

S i d e 小石

結論だけ言おう…

ごつくんされちゃった☆

いやーまいりましたよー(ー)。ー；

いきなりあんな、世界一凶暴な生き物で毎年金賞獲つてそうなのに食べられるんですものや〜ね〜本当、だって視覚と聴覚が使えないんだぜ？

五感全ての感覚が無くなるの普通の人なら発狂するレベルでしょ？

【注、聴覚と視覚だけの状態で一ヶ月も平然としている主人公がおかしいです】

まあ、でも俺の様で慌てず冷静に考えれば答えは出てくるんだよ………ん？どうしてこんな状況で冷静に考えられるかって？

んゝ

んゝ

……

あつ

俺だからかくハハツ

フフフフフフハツハツハツハツハツハツ

どんな考えか教えてやろう!!!

今胃の中↓待つ↓溶けない俺 i s h i i i i i i i i i i i i !! ↓うんこ ↓脱出

完璧すぎる w w w w

うんこになって脱出!! ハハハハハハ、ハ、ハ……うんこ………

出る↓うんこ↓／（＾o＾）？

い、嫌だ……

うんこまみれなんて……

しかも、さつきから何か力が抜ける様な気が

本当にどうでもいい事であつた…

—————

石だから雨で流れる…別に良くね？…やーいウンコマン…これで運がつくね☆う
んだけに…など色々あるだろ…否!!

そうじゃないんだ!!!

そりや水で流れるよ!!人それぞれ意見はあると思う、

が、
が、
だ

うんこは嫌だ!!!

俺のプライドが傷つく!

えっ? 石にプライドがあるだって!!

あるよ!! あるさ!!、い、石にだって人権はあるんだ!!!俺...石だ
じゃなくて!! どーしよ考えるんだ、何ができるかまとめよう...

俺は石だ...

視力がある.....だが石だ

音が聞こえる.....だが石だ

少し跳ねれる.....だ g (r y

…ダメだ!!

使えそうなのが跳ねるしかねえけど威力が足りねーし、そもそも胃をつき破れるかも分からん、てか何で俺を食ったかわかんねーよなハア…

そーいえば昔の恐竜に歯がなくて石を草と一緒に食って石を擦り付けて居たんだけ？待てよたしかこいつには牙があつたし、石を食べる意味が…
んゝ

とあれこれと考えていると…

ドクドクドクドクドクドクツツ
!!!!

《わひよっ!?!》

な、何だいきなり!?!変な声出ちまったじやねーか

ってこの音は、

おそらくはバケモンの心臓だろう、てか心臓しかないか…

てかヤバくねコイツ、何か心臓が凄い早さで動いてるんだけど…
と、とにかくヤバそうだから逃げ道を考えないと…

……

……………

わかんねー!!!!

もうヤケクソだあ!!! 跳ねまくる!!

体の下に力が集まるように!! 溜めて溜めて!! ……え? 溜めて溜めて!! ……溜め
れない? 何で? まだ余裕があるのに!!

ヤバイヤバイヤバイヤバイヤバイヤバイヤバイ

そこで突然意識が無くなった…

旅をしよう

よう、俺だ

いきなりだがここは、「地球」ではないらしい、いろんな所を旅し結果、現代っぽい建物が全くない…人はいる…縄文ほいけど…いるんだ

が

何故か月が二つある、おかしい、俺が石になってること自体おかしいが…まあ俺が知る限り地球に月は一つだ

それに俺を食った化け物は文字通り化け物らしい、なんか動物とは違うらしい、

では、動物でないなら何だ？と言うとユニコーン…などではなく

【妖怪】だそうだ。

よ、妖怪はいたんや …マジワロエネエ…マジで…

とまあ…話しを戻して

俺の【力】は妖力だった、だが俺は妖怪ではないらしい、この妖力も俺の無い、【神威】が言うには「彼奴」の最期のが当たったんだろう」

…最期の、とはあの雷だろう、それに神威の妖力も入ってるっぽい何故や…

「俺が知る中で最も強い奴だ、俺を抜いてな、ガハハッ」

などと言っていたが、神威に勝てる、いや、互角に殺り合える奴なんているのだろうか…いても会いたくない、切実に…

あと、俺は妖力を使えない、妖力は持っているが使えない、では何故跳ねることが出来たのかというと【能力】だそうだ、

俺の【石を操る”程度”の能力】でぴよんぴよん跳ねてたらしい、この能力で空ぐらい飛べるそうだが…

今は訳あつて使えないが…

神威の能力は【変換する程度の能力】だそうだ、

一見チート過ぎると思うがエネルギー的なものなどしか変換出来ないそうだ、

それでも最強だ、神威を殴ってもその威力を0にするか倍にして目標を変えて相手に攻撃を与えることも可能、だが変換出来るのにも限界があるらしく、その限界を突破したのが神威岬に致命傷を負わせた俺に雷を落とした奴だそうだ…

それにこいつは能力無しでも最強だ、速さは音速は越えてるだろう、噛む力は計り知

れない、文字道理最強、負けた事は無いらしい…

とまあ、いろいろあつて今は俺はこの狼妖怪「神威」と旅をしている…
何がいろいろか分からないって？

こういうことだ…

神威は山を縄張りにしていた、

神威「お腹減ったなんかたべよ」だが近くの村が発展、動物を乱獲
で

神威「人間たべよ」村壊滅w

からの

生き残り「何するだー！」神威「戦争じゃー！」

そんで

生き残り「食らえー！」神威「あべし！」だがギリギリ助かり相手は死んだ

そして

致命受けたが最後の攻撃をくらって妖力空、傷が治らない、「ちよw死ぬww」
自分と生き残りの妖力発見! go!

で

妖力が石から、食えば傷が治んじやね? ↓治つたwwやべwwみwna wぎつwてwき

w

たw ↓あれ? 声が聞こえる、なんだろ? ↓俺氏気絶 ↓起きて話し合う、出れない、

↓一緒に旅しよう (今ここ)

こうして旅をしてる訳だが、一つ言いたい事がある

さつき回想で出たが【程度の能力】…今気付いたが…

「(ここ)、東方の世界じゃあねえーかあああああ!!?!!?!!?!!?!!?!!?!!?!!!!」
自分の能力を知ってから数ヶ月後の事であった

「五月蠅い!!!」

「あ、(う)めんなさい」

こうして、石に転生した可哀想な主人公は今後どうするかをかんがえましたと

キヤラ紹介

—————キヤラ紹介—————

主人公名前：石（せき） ↑安直で何が悪いw

年齢：1歳

性別：不明

一人称：オレ

好きなこと：景色を見る事、何時間、何日でも見てられる…

種族：石

身長：7cm

能力：石を操る能力、（石を浮かしたり、ダイヤにすることも…）

運悪く石に転生してしまった主人公、最近、ぼーとする事が増えてるとか…

—————

——【神威】——

年齢：7000歳

性別：不明

一人称：俺

好きなこと：旅、人間の進化？

種族：妖怪

身長：4 m

能力：変換する程度の能力（エネルギーなどを変換出来る、他にも出来そうだが莫大な能力が必要）

でかい狼のような外見、額に一本の角が生えている、やばい強い、自称妖の王
前の世界から生きているそうだが、どう言う事だろう：

―――転生者(故)―――

名前：朝比奈 裕二(あさひな ゆうじ)

年齢：290歳

性別：男

一人称：俺

好きなこと：人間観察

種族：妖怪

身長：175cm

能力：電気を操る程度の能力(自分の妖力を変換して使用、相手の中に直接電撃は可能だが、神威は、妖力が強く交渉出来なかった)

240年前に転生して来た転生者(天然物)もとい妖怪、ある村の人間との何かしらの関わりを持つが神威によって村が壊滅、神威との戦闘で死亡…出番は…分からん

—————主人公(前世)—————

名前：?????

年齢：19 (故)

性別：男

一人称：俺

好きな事：友達とどっか出掛けること

種族：人間

身長：170

能力：カッププラーメンを3分きっちりで測れる程度の能力(※こんな能力ありません)

平凡な人生を歩む平凡な少しテンションがおかしいだけの普通の大学生、だがある時溺れてた少女を助けるために死亡…

—————

この作品は、主人公の性格上、あ、ま、り、シリアスにはならないと思われる

.....

.....

.....

.....

..

たぶん

いや、一応、シリアスの場面は考えてあります、が、この作品は作者の気分70%
ぐらいでかきます。

といつても、伏線仕込むのはいいんですけど、拾うのを忘れたらとおもうとヒヤヒヤ
します、

そこらへんも気をつけよう、うん（—）；（）本当に…

衝撃の事実？

(しかし東方の世界だとはなく、神威の話を書くには幻想郷はない、てことは俗に言う【太古転生】ってやつか…小説とかで何万何億生きてる奴ってなにしてたんだろう…俺には耐えられ…そうだわ、俺石だわくぬぼーって何年も出来てそうだわく怖いわくてかここまで来たら俺妖怪だわくヴィジュアル的には石だが物語的には妖怪だわく………は!!? 待てよ月二個あるじゃん!!? 確か東方つて一個だよな…

その前に俺、人型になれるよね?…これで原キャラにどう関われと…最悪能力で…でも…

ぐぬぬ…)

「はあ…分からん」

「? さつきから叫んだり落ち込んだりどうした?」

と神威が可哀想な子を見るような目で見てくる……いや実際には見れないよ……でもそう見てるであろう、きつとそうだ！……てかなんで感情までわかんの？これもヨーカイばわーなのだろうか……

はあ……なんだろ、自分で言ってる悲しくなってくる……orz

いつて無かったが神威に視界ジャック（サ○レンの）擬きを使い神威視線であるが外を見る事がしかも感覚もリンクする事が出来るのだ（ω^ω）
（感覚リンクは疲れるからたまにしかやらないが）

「あ、ああいや考え事だよ」

と俺はまた失態を晒さないように

「そうか？ならいいんだが……おつ、もう直ぐ着くぞ」

と、こんなどうでもいい話？（※かなり重要）をしてると

200mぐらい先にドラクエに出てきそうな村が見えてきた、ちなみに初村である

「おおっ!!?村!初村!!?じゃん!」

と感激してると

「じゃ、行くか」

と神威が村に突っ込んでこうとするので

「ちよつと待てえーい!!?」

「何だ?うるさいぞ、こっちはお前の声が直に来るんだからな(旦、)」

「あ、ごめん。…じゃなくてお前何入ろうとしてんだよ」

「?ダメなのか?」

はあ…こいつ天然なのかヴァカなのかわからん

「だめだよ、お前考えてもみろ、こんな3mオーバーの巨体が平凡な村にいきなり入ってきたらどうなる?」

「?うえるかむ?」

「しねーよ!!?ウエルカムしないよ!!?どんだけ肝が座ってんだよ!てかなんでウエルカムしてしてんだよ!馬鹿だなお前!馬鹿か、馬神威!!?」

「くつで、では何だ?」

「まずビビる、食われると思うね、∴でお前人間食うの?今まで食つてるとこ見てないけど、そこんところどうよ?」

「ああ、今は要らん、お前が中にいると濃厚な妖力が溢れるくらい貰えるって事は前に言つたら、あれから妖力の量が増えたしなガハハ」

「∴お、おう(マジか、また強くなったのかよ∴)」

妖力が増える…妖力、霊力の最大量はその個人個人妖で決まっている、だがその最大量を増やす事が出来る、長く生きる・霊力、妖力にずっと浴びているなどがある。

まあ、その二つで普通上がるんだが…神威の場合この俺もとい「妖力源」が体の中にあるのでこんな短時間で強くなれる、って訳よ

もう一つ、神威の体には主人公（元は別の人のだが）の妖力が馴染んでいる、視覚ジャックもそのおかげで出来ているので、神威の体も少しは…

「ま、まあ食わなくても、お前じゃ入れねーよ」

「うぬ…ではこうすればいいのか」

「はあ？どうすん」

どうすんだよ？と言いつ終る前に視界が真っ白に染まった

そして

「あれ？」

何もない…でも視線が高くなったような…

いきなり神威が

「じゃあ行くか」

「お、おい待て」

止めても止まらず

「まあ見ている」

「え、でも、えー…はあ、分かったよ」

待てよ

「お前…英語いやこっちの言葉分かんのか？」

そう何を隠そう俺たちは日本（神威の話から察するに）から海を渡ってきたのである
神威が海を走ったのは凄かった

「ああ一応はな、おお着いたついた、」

あれ声が高くなった？てかついちまったよ（―――；）

×××
×お、門番の人がきぎずいた！どうする神威よ！（・皿・）ノ

「××」

××と神威が何処かの言語を使い挨拶？をしたようだ

××すると門番は!?

××

××××××××「××××××」?

あれ？普通に返した（言葉の意味は分からんが）

このあと俺が予想したことは起こらず謎の言葉の会話が続きとうとう中に入れてく
れた

ー村の中ー

「何したんだよ一体？」

「ん？ああ人化だ」

え、今なんて？

「マジで？」

「ああ」

「え、今人？」

「人ではない化けているだけだ、妖力を抑えるが厳しいが…見るか？」

「おお、見せてくれ!!?」（人型になれるとか初耳wダンディなおっさんとかかな？）

建物の後ろに移動して誰もいない事を確認して人型を見せてもらう

すると突然神威の前に能力で光の向きを変えるところで簡易の鏡が出来る…やばい
何がやばいって？ははっ…これは

目の前に蘭がかた黒色の髪で美形の………巨乳美女がいた

「ええええええええええええええええええ
!!!!!!」

p.s. 凄く……大きいです

「な、なあ神威、その姿以外には慣れるのか？」

「?い、いやこの姿だけしかなれん」

そうか…

あ、それより

「お、お前…

女だったの？」

「ん?人で言えばそうだな、雌と言った方が正しいな、…言っただけでなかったか？」

「い、いやいや！聞いてないけど！」
マジで

「そうか」

そうかつて、

まあ、考えてみたらおっさんじゃなかったただけいいか、……………いいのか？……………

俺という年齢Ⅱ彼女いない歴のチエリーに【女性の中】（変な意味ではない）にいますというシユチュエーションに耐えられるだろうか…

答えはNOだ、そもそも俺にそんな趣味は無い、あつてたまるか

そして相手は狼だ、ただの狼の雌、そう狼の雌、そう考えればいいのだろうか…

答えはNOだ、むしろこっちの方がワケワカメだ、

論外。

ではこうしよう、今までどうりだだそこにいるだけの存在で友のような存在、そんな関係で接する事が出来るだろうか…

答えは、NOだ、女性と二人つきりで話すなどママンやグラママンとぐらいいしか話せる自信がない、意識したら更にだ……………あれ、これ将来、女の子と喋れない、

ここが東方の世界であつてならもこたんと旅に行く予定だし…

そして

石は

考えるのをやめた



石はやる事がないのでいつもこんな感じですよwあ

—————

——一時間後——（考えるのをやめてから）

「よし！少しの間住まわせてくれるそうだし」

と嬉しそうに神威がつぶやく

あの後、村長らしき人に「少しの間いさせてくれ」的なことを言いに行き、少しー30分ーぐらい話してOKをもらったということだ、

まあ、このまま旅に出てもいいんだがな、俺は…ね

「良かったなく、んで少しってどんぐらいなの？」

「？あゝあ、1年んぐらい」

「長!!?そんなに居ていいのかよ?」

色々問題はあるだろう

「ん、まあいいと言ったからいいんじゃないか?」

「お前っ!...はあ(ーー;)それでいいならいいよ、

まあ、のんびり行こうぜ!」

そして

1
0
年
後

終わりの始まりの始まり

俺たち（神威だけ）がイチジクっぽい、サブという木の実を簾みたいな物に包んで干す作業を行っていた

ここではこの時期、よく見る風景だ

で

…俺たち、何してんだろ…

「サブを干しているんだぞ？」

「っ!?!お前、心読むなよ、ビビるじゃねーか」

「ここ」 10年 で思っていることを神威に聞こえないようにすることは出来るようになったのに…これもようかいぱわーか!?!?

「いや、言葉?に出たぞ」

マジか…

どうやらおれの心の眩きが漏れてしまったようだ

「いやさ、俺たち何してんだろうなって思ってたさ」

「?だからサブを」

「違う違う何で10年もここにお世話になってんのかなって」

そう、俺たちはこの村〔ラプソン〕村…某暗黒神みたいな名前をしているがいい人ばかりで甘え過ぎて10年この村にいる、

まあ、神威が意外に、いや妖怪だから能力値が高くて使えるのは当たり前だがまあ、使えるので別に迷惑って訳じゃないと思う…

が

問題がある

神威がもし妖怪だと村の皆バレたら

たとえ

神威がどんなに使えても、優しくても、村に貢献していても、〔妖怪〕なのだ
その真実一つで村の者皆怯え、慄き、殺しに来るだろう

それが自然の理だ妖怪が人を襲い人間が生きようと必死になり身を守り戦う
とこんなをゆかりんが言っつていような気がした（違うと思うけど）

話がずれた

だが神威は、村に馴染んでいる馴染みすぎている、皆と心から楽しく話している。

夜になると子供達の話などをして話す（まあ、一緒にいるから知っているんだが…）

神威は楽しそうだったし…

多分神威はこの村を好んでいる俺も見ていて楽しい、がそれもいつかはバレるだろう、考えすぎかもしれないが…

「いいではないか、んしよ、ここの皆がいいといってるし、つと終わってた〜！」

「でも、いろんなところに行くんだろ？だから」

途中で村人に話しかけてきた

こいつもこの村に侵されたな、ああ、人にか
ん？待てよ、

「それはおかしくないか？」

「？何がだ？」

「前にラグと戦ったこと覚えてるか？」

「ん…あ…あ、ああお、覚えてるぞ」

「はあ、覚えてなければいいよ」

「うっ、な、なんだ！何が言いたいんだ！」

神威が逆ギレしてきた

(てか出会った頃のダンディーさは何処え…神威さんよ)

「ラグってのはな群れないんだよ」

「？そうなのか、でもなんで知ってるんだ？石の癖に」

「あつ！、お前！行ってはいけないことを！この！！？この！！？…バカ！！？…アホ！！？」

「…ふ、ふつ、何もできないくせに、」

「バーカバーカバーカバーカバーカバーカ！！？！！？」

「うるさいぞ！！？グルルルウ」

なんだかんだあつてラグ狩りに出発は明日へと持ち越されたとき

そしてこのラグ狩りであんな事になるなんてこの時思ってもいなかった…

ラグとフラグって似てるよね（すつとぼけ）

謎の幼女

もし、俺たちが早くラブソン村を抜けていたら

もし、俺たちが口喧嘩をしなれば

もし、俺が能力を使えたら

もし、判断能力があつたら

こんな結果にならなかつただろう

だがもう遅い。

神威が死んだ

早朝

俺たちはラグ狩りへと来ていた、

(ラグが集団なんておかしいな。何かの危機を察したとか？でもあいつらはかなり強いから大抵の事じゃ群れないし…)

「…まあ、神威なら大丈夫か」

「ん？何がだ？」

「何でもない、てかラグの群れはまだか？」

「？もうすぐだ、」

「なんだか遠いな」

神威は今、凄い速さで走っている、それで10分は経った、村の人間が見つける事が出来るのは精々10キロ圏内だ、それ以上離れてたら倒してくれなんて言わない、何でこんなに離れているんだ？やっぱなんか脅威か？

「おー！」

何かがあつたようだ

「どうした？」

「ラグの群れが止まったようだ」クンクン

「なんで匂いでそこまでわかんだよ……」

何ですか？神威クオリティですか……納得です

まあ、でも

「好都合じゃねえか行こうぜ」

「…あ、ああ」

なんだかどもりながらも走り出した

まあ神威なら平気だろ

なんだ、これ…？

ラグ数百体の死体が散らばっており地獄絵図とかしていた

ん？あれは…

「おい神威あれ、みろ…見てるか、あれって」

死体の山の中心に

「人か？それも子供のようだ」

子供があんな所に立っているなんておかしい、あの子がやったのか？

「行つて見るか？」

「……あ、ああだが石、油断大敵だぞ」

神威が……ビビつてる？

「油断大敵つて実質お前だけだろ？それにお前に限つて負けねえよ」

「だけどだ、あれは何かおかしい、何処か俺に似てる様な……」

「？とりま行こうぜ、本当に危なくなったら逃げればいいし、な」

「…ああ」

素晴らしい神威は一步一步ゆっくりと進み出した

「ん？、女の子か」

その正体は女の子だった、小学3・4年生ぐらいの少女だ
だがその少女は俯いたままピクリとも動かない

少女との距離が残り20mを切った辺りで

少女が顔を上げた

「!?くそッ」

何かにきずいた神威が動き出すよりも早く

そして少女は満遍の笑みで

「みくつけた♪私イ！」

そう少女が言った瞬間

真つ黒な閃光が視界の真下を通過した

「え？」

何が起こってんだ？

ドスツ

そんな音と共に視界が一気に下がる、

そして視界が暗くなる

!!?

「神威!!? 神威! 神威!」

な、何が起こっている!!?

何だアイツ

神威が撃たれた?、あの神威が、

「おい! 神威!!? !!? ……」

ダメだ返事がない

心臓の音が聞こえない

…嘘だろ最強の神威が…

一瞬で

殺された?

嘘だろ？

今起こつている事がまだ飲み込めていない俺に唯一機能している聴覚に高い声が響く

「あれもう死んじやったの？つまらない私だからもつと強いと思つたのに」
こいつが神威を？

「ま、いつか♪私は二人もいらないし！、それに結構弱つてるみたいだしね」

こいつは？なんで神威が？

神威が殺された、

俺の所為だ、

俺があの時、急がせなければ！クソツ

「早めに吸収しよつと♪」

ピタ

吸収？こいつさつき神威の事、私、って言つてたよな？、何なんだこいつ、わけわか
んねえよ！

「えい！」

ゾワツ

!!?

…何か得体の知れないものが体に入ってくるみたいだ…

気持ち悪い…

「あれれ？何だ何だ♪！何かあるぞ♪!!？」

俺は本能的に動いていた

「??なんぞ♪」

体の下に全ての妖力を集めて

「何か変な妖力があるぞ♪？ま、いつか♪」

何か、ドス黒い何かに押しつぶされそうになるが気にしない、気にしたら呑み込まれ
る

溜める

「ん〜？おかしいな〜♪」

溜める

「えいえいえい！♪……えい？」

溜める

「ナニナニナニナニ!?」

溜めて

開放

「え、♪？ | . | . | .

瞬間、音が消えた

外がどうなったかはわからないが、「アイツ」は多分近くにいないだろう…

神威をどうにかしよう…

俺はリンクを使い神威に憑依する、心臓、左胸にぽっかり穴が開いている

どうにかここから少しでも離れるために左胸に大きな風穴が空いて安定しない足取りで歩み出した

|||

リメンバー

俺は一心不乱に歩いた。

(畜生畜生畜生畜生畜生！畜生ツ!!!どうなってんだよツ！何だあいつあ!!もう意味わか
んねーよ！クソクソクソツツ！)

神威が”殺”されてもう何時間が立っただろうか？

もう神威はだめな事は分かっている。

…だけどどうにかなるかも知れない、今の状態なら”能力”を使えるかもしれない…

だけど…俺は、俺はどうすればいいんだよ…【アイツ】が何なのかもわかんねえよ…

俺の不注意で神威殺して…

(神威いいいッ!!!)

(…うるさい)!!!!

もう届かないのは分かっている、だが言わせてくれ…

(ごめんな…さ………)

(すまない)

(あ、ああ、変換する…)

(そうだ、「変換する」能力、「本来」この力は強力な力だ…強力故に対になる力が生まれたそれが「返還する」能力、俺が食らったのはその攻撃だ)

訳けが分からない。

神威が生きている事によって少しは理解できるようになった頭で神威の言葉を整理していた。

対する能力…

本来の力…

(なんでアイツはお前を殺…吸、収しようとしたんだ?)

(…完成させるためだ…)

(完、成?)

(ああ、弱点を無くす。二つの対する力がそれぞれ違う弱点を持つていたらそれぞれの力で補えばいい、それなら一緒に成ればいい、一つになる、どちらかが吸収すればいい、そうして俺を吸収して完成しようとしている。

だがどちらが吸収しても同じなんだ…だって

同じ【私】だから)

同じ。対する存在。確かに同じかもしれない。だけど全てが同じではない、いや歯車の歯と歯が噛み合わないところがあるのかもしれない少なくとも神威は神威だ…

だから

言わなければならぬ

違うと

だが俺は言えない。何故だ、怖いのか？

覚悟がないのかも知れない全てを否定する。

全てがただの虚言だ。無責任な言動で最悪な結果に結びつくのは避けたい…

ふと神威が言う

(今宵は満月だ…アイツは追ってこない、今のうちに体制を整えよう…)

神威が哀しそうに眩き夜空を見上げる。

その先には俺たちを嘲笑うかのように輝く二つの月がこちらを見下ろしていたのだった…